ドミニカ（共）内政，外交，経済定期報告（２０１６年８月）

　２０１６年８月の当国の内政，外交，経済の動きにつき以下のとおり報告する。

１　概況

●１０日，ペニャ元国防大臣他当時の関係者３名は，スーパー・トゥカノ軽攻撃機の購入に関連し，ブラジルのエンブラエル社よりの収賄容疑で逮捕された。

●１１日，エステベス農務大臣は，１０日に米国農務省（USDA）が当国２地域からの，地中海ミバエ寄生植物の果物等の輸入規制措置を解除した旨発表した。

●１６日の大統領就任宣誓式において，メディーナ大統領は，約１時間２０分に及ぶ演説を行った。日本からは，北村誠吾特派大使（日・ドミニカ（共）友好議連副会長）が出席した。

●２４日，中銀は，本年上半期の経済成長率が７．４％であったことを発表した。

●３０日，バルガス外相は，デリエンヌ・ハイチ暫定外相と会合し（於：ハイチ），税金の支払いを条件に，ドミニカ（共）産２３品目のハイチへの陸路輸出規制の解除に合意した。

●上記外相会合において，ハイチ外相は，１０月末に，ドミニカ（共）に滞在する約１１万人のハイチ人に対しパスポートを発給することを約した。

２　内政

（１）１０日，ラファエル・ペニャ元国防大臣，カルロス・ピチー二・ヌニェス大佐及び民間会社（4D Business Group社及びKantor社：これらの会社を通じて贈賄の受領が行われた）関係者２名は，２００７年から２０１１年の間にわたり当国政府がブラジルのエンブラエル社から８機のスーパー・トゥカノ軽攻撃機を購入した際，同社から350万ドルの賄賂を受け取った容疑で逮捕された。また，当国検察によると，ルイス・レネ・カナン上院議員は，スーパー・トゥカノ軽攻撃機の購入に際し，国家経済社会開発銀行（BNDES）から9,360万ドルの借入を行うための国会承認に必要な賛成票を確保し，カルロス・ピチー二・ヌニェス大佐から賄賂を受け取った疑いがある由。

（２）１６日，大統領就任宣誓式が行われ，メディーナ大統領は，約１時間２０分に及ぶ演説を行い，ドミニカの農地に根ざす自らの出自を忘れることなく，ドミニカ大衆の喜び・苦しみを自らのものと受け止め，改革のアクセルを踏み込む強い決意を表明した。なお，同就任宣誓式には，エルナンデス・ホンジュラス大統領，陳建仁・台湾副総統，フアン・カルロス前スペイン国王，コレア・エクアドル大統領，バレーラ・パナマ大統領，モラレス・グアテマラ大統領，サントス・コロンビア大統領，マドゥーロ・ベネズエラ大統領，モラレス・ボリビア大統領，セレン・エルサルバドル大統領，プリヴェール・ハイチ暫定大統領，ホルネス・ジャマイカ首相，ブラウン・アンティグア・バーブーダ首相，バルデス・キューバ国家評議会副議長，チャコン・コスタリカ副大統領，ハレスレーベンス・ニカラグア副大統領，ミケティー・アルゼンチン副大統領，ペレス・米国労働長官等が出席した。日本からは，北村誠吾特派大使（日・ドミニカ（共）友好議連副会長）が出席した。

（３）１６日，パレ・ペレス上院議員が２０１６年－１７年の上院議長として宣誓し，同様にルシア・メディーナ下院議員（注：メディーナ大統領の妹）が２０１６年－１７年の下院議長として宣誓した。

３　外交

（１）１日－３日，サンティアゴ市において，CELAC食料安全保障・栄養・飢餓撲滅計画２０２５の会合が行われ，セデーニョ副大統領，ナバロ外相，エステベス農務大臣の他，３３カ国の代表団が参加した。

（２）１７日，メディーナ大統領は，大統領就任式に出席した４カ国の代表，ペレス・米国労働長官，北村誠吾特派大使（日・ドミニカ（共）友好議連副会長），陳建仁・台湾副総統，ビクトル・スアレス・プエルトリコ知事首席補佐官と会合を行った。

（３）３０日，バルガス外相はポルトープランスを訪問し，デリエンヌ・ハイチ暫定外相と会合を行った。同会合では，税金を支払うことを条件に，ドミニカ（共）産２３品目のハイチへの陸路輸出規制の解除に合意した。今回の陸路輸出規制解除はバルガス外相の成果というよりは，ハイチ政府が既に決定していた内容を同外相の初来訪に合わせ通報したものである。また，デリエンヌ・ハイチ暫定外相は，１０月末に，ドミニカ（共）に滞在する１１万２千人のハイチ人に対してパスポートを発給することを約束した。更に，１０月１９日から２国間合同委員会を再開することに合意した。

　同日，バルガス外相はプリヴェール・ハイチ暫定大統領を表敬訪問し，ドミニカ（共）産２３品目のハイチへの陸路輸出規制解除につき最終的な確認を行った。また，同ハイチ暫定大統領は，メディーナ大統領を正式にハイチに招待した。

４　経済

（１）７日，経済企画開発省は，２０１５年の当国の貧困率が３２．３％であり，前年よりも４％減少したとする報告を発表した。同比は３３７万５１１０人に相当する。なお，２０１５年の極貧率は７％であり，前年比１．４％減少した由。

（２）１１日，エステベス農務大臣は，１０日に米国農務省（USDA）が連邦令DA-2016-51の発出を通じ，サントドミンゴ県及び首都特別区からの，地中海ミバエの寄生植物である果物及び野菜の（米国への）輸入規制措置を解除した旨発表した。

　同農務大臣は，サントドミンゴ及び首都特別区には約３千タレア（注：１タレアは約２平方km）の土地で，輸出可能なパパイヤ及び青ピーマンを生産している，地中海ミバエが発生したプンタ・カナ（注：当国東部）において，この３週間，同ミバエは確認されておらず，１０週間で確認された同ミバエの数は週平均僅か２匹である，今年末には完全な根絶に達することが可能であり，未だ輸入規制下にある他の東部の県からの輸入規制措置の解除を望む旨述べた。

（３）２４日，当地中央銀行は，２０１６年１月～６月の当国の経済成長率が７．４％であった他，その他の経済指標も好調であるとする概要以下の報告書を発表した。

ア　２０１６年１月～６月のドミニカ（共）の経済成長率は７．４％であった。同報告書は，この結果が今年の経済成長予測を超えており，ドミニカ（共）をラ米カリブ地域において最も経済成長著しい国に位置付けるだろう。

イ　この経済成長は，１７．７％成長した建設業，鉱業（２５．１％），金融業（１１．０％），福祉（９．５％），農畜産業（８．０％），教育（７．０％），商業（６．２％），地方製造業（６．０％），輸送業（５．１％），ホテル・バー・レストラン（４．９％），などに支えられている。なお，建設業の成長は主に複合観光施設，道路及び低価格住宅の建設に基づき，鉱業の成長は金，銀，銅の増産（それぞれ１８．２％，６４．８％，８０．２％の成長），及び２０１３年末から中断されていたフェロニッケルの採掘再開による。

ウ　好調な観光業や海外送金，石油価格の下落により２０１６年１月～６月の経常収支は１億２９９０万ドルの黒字，海外直接投資は６月までに昨年比８．０％増の１０億９１９０万ドル，インフレ率は０．３６％，外貨収入は昨年費３．２％増の１１７億５２２０万ドルで，外貨準備高は７月２９日までに５３億３３６０万ドルに達した。

（了）